

2011年度JICA青年研修 「ベトナム・都市環境管理」コース

対象国：ベトナム

研修員数：14名

研修期間：2012年2月7日（火）～2012年2月24日（金）18日間



経済成長がめざましく、日本企業の進出も多く見られるベトナム。南北に細長く広がる国土や、お米を用いる食文化など、日本との共通点も多く見られます。

そんなベトナムから、14名の研修員が、都市環境管理を学ぶため、真冬の十勝へやってきました。

ベトナムにおける都市環境の課題のひとつは、他の東南アジア諸国同様、**廃棄物処理**に関することです。一部の都市では、これまでに家庭でのゴミ分別と収集を試みたものの、せっかく分別したゴミを一緒に回収される様子を見た市民がやる気を削がれてしまったり、プロジェクト期間中は一生懸命でも、終了後はまた元に戻ってしまうという課題があり、どうしたら分別収集がうまくいくのかという疑問をもったの来日となりました。



実際に、一般家庭でしっかりと分別され、曜日によって収集されるものも異なり、廃棄物は中間処理の後最終処分、リサイクルできるものは別の製品に生まれ変わるという様子を目の当たりにした研修員は、帰国後、ベトナムでもやってみようと真剣に計画を立てていました。

また、現在ベトナムで処理されることなく河川に放流されている生活廃水・工業廃水についても、かつて日本が**廃水処理**をしていなかった時代に発生した公害を引き起こす原因のひとつであることを学び、処理の必要性を実感していました。

更に、**民間企業**による環境への取り組みや、**規格外農産物**等の未利用資源を活用したクリーンエネルギーの開発、都市環境と自然環境の両方の保全に役割を果たす**帯広の森**、こどもたちへの**環境教育**、NPOによる**国立公園**での環境保全活動等についても学び、多くの知見を得ることができました。

毎日のハードスケジュールの中、自分で抹茶をたてた**茶道体験**や、十勝の食材を用いた**ピザづくり**、初めて見る一面の雪景色を歩いた**スノーシュー体験**、前面凍結した**糠平湖散策**、十勝の長いももとエビを用いた**ベトナムスープ**を配布した市民との交流などは、学んだ知識と同じくらい価値のある、一生の思い出となりました。

ご協力いただきました皆様に、改めてお礼申し上げます。引き続き、帰国研修員が一步ずつでも前進し、学んだものを活用してくれるよう応援したいと思います。



ご協力いただいた講師・関係者の皆様（敬称略・順不同）

八重柏泰志コースリーダー、帯広百年記念館、卯野興治・睦子ご夫妻、帯広市清掃事業課、株式会社ウインクリン、株式会社エルバ北海道、株式会社DISPO.、十勝環境複合事務組合、生活協同組合コープさっぽろかしわ店、帯広市環境課、帯広市稲田浄水場、十勝川浄化センター、くりりんセンター、財団法人十勝圏振興機構、帯広市みどりの課、NPOひがし大雪自然ガイドセンター、株式会社満寿屋商店、裏千家淡交会帯広支部

— ありがとうございます —

